

例年であれば来年度の本校志願者に対してのオープンスクールを実施している時期ですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため第1回目は中止となりました。本来はその場で漢字一字を示し、今年の想いを話す予定でした。その機会を逸しましたので、ここに提示します。右がその漢字です。

「熱中」「熱気」「情熱」など使われますが、詳しくは間もなく配信される予定の「WEBでオープンスクール」の中で話すことにしています。また、9月に予定されている本校で行われるオープンスクールでも話します。

「生かされて生き 愛されて生きる」

数年来、妻は書道を習っています。毎週水曜日が稽古日なので、休み明けの月曜日と火曜日は血眼になって筆を走らせ、半紙に向かっていくようです(たぶん)。関係する機関誌に名前や作品が載ることが一定の成果のようで、それに取り上げられたときの晩のおかずは一品多くなります。先週の水曜日の晩、おかずは多くなかったのですが妙に妻の気分がいいことを察しました。テーブルの上を見ると丁寧にビニール袋に入れられた半紙半分ぐらいの大きさの紙が置いてありました。「習字の先生からいただいたのよ。素敵でしょ」と妻は自慢げに言いながら、大切そうにそっと持ち上げてその紙(書)を見せてくれました。

「生かされて生き 愛されて生きる」と達筆で書かれていたのです。「いいねえ、これ」と呟いた後、そこからの時間経過はやけにスローテンポだったことを覚えています。この言葉に触れた瞬間、私の心の奥にある何かを持っていかけたというか、吸い込まれたというか、暫し続く動作が曖昧になっていく感覚でした。ビールグラスを口にしたのか、箸でおかずを口に運んだのか定かではなかったのです。

ややあって食卓を囲む父と母が登場し、幼い頃に兄と走り回っている自分、ふるさとの四季折々の自然、甘えさせてくれた祖父母、小中高時代の恩師、苦楽を共にした友人たち、折れた心を正してくれた北海道の先輩、人生訓を語ってくれた台湾料理店のマスター、昔話や民話採集に出向いた東北地方のあちこち、かつて担任をしたクラスや部活の生徒たち、2人の我が娘と息子、可愛すぎる孫たち、大病から命を救ってくれた広島市民病院の先生、前任校の同僚と先生方、そして、現在の学校の先生方と生徒たち・・・、にわかには信じがたい速さで、ありとあらゆる人や風景が浮かんで消え、消えては浮かんできました。これまでどれほどの人と出会ったのだろうか、どれほどの地を踏みしめたのだろうか。

“「生かされて生き 愛されて生きる」、ああ、そうだよなあ。父や母がいて、兄がいて、妻がいて、我が子がいて・・・。数多の人たちに迷惑をかけて申し訳なかったなあ。ここまで支えてもらったんだよなあ。みなさん、本当にありがとう。そうだよなあ、ここまで一人で来れるはずなんかなかったんだよなあ。こうして生きていられるのは、みなさんのおかげなんだよなあ”と耽っていた自分に「大丈夫? どうしたの?」と妻が声を掛けてくれたのかくれなかったのか、我に返っていました。

それから数日が経ち、この書を見ては日毎実感するばかりです。「生かされて」というのは、こうして生きていることは周囲の人(やもの)に支えられているからという感謝の気持ちを表す言葉です。「愛されて」というのは、大切にされているとか、想いを寄せられているという感情を表す言葉です。すなわち、自分が想いを寄せる人に見守られているということなのです。「生かされて生き 愛されて生きる」とは、たった一度きりの人生、授かった命を大切に生きていく意味を己に問い続け、周囲の人(やもの)に支えられ、守られているという感謝の念を忘れずに生き抜きましょう、という意味であると解釈しています。

また一つ、心にとどめておきたい言葉が増えました。この言葉に出合うきっかけを作ってくれた妻に感謝です。これからも渾身の書をあらわしてください。

さて、こうした類の言葉にヒットしがちなのは、自分のアンテナがこちら方面に向いているからなのでしょう。いずれにしても、本校の建学の精神「報恩感謝・実践」に極めて類似していることは言うまでもありません。いや、その意味性は双方何ら変わるものではありません。

今後は折に触れて、建学の精神と関連付けながら話していきたいと思っています。